

支援プログラム

(別添資料1)

事業所名 障害児デイサービスセンターさわやか(放課後等デイサービス)

作成日 令和7年 3月1日

| | |
|---------------------------|---|
| 法人(事業所)理念 | 手を取りあって共につくる住みよいまちをめざして |
| 支援方針 | 一人一人に寄り添った個別の支援や創作的活動、集団活動など様々な経験を通じて、日常生活動作、社会的スキルの習得、向上を目指し、自分らしく社会生活を送っていただくことができるようにサポートをおこなっていきます。 |
| 営業時間 | 平日 9時00分から 18時00分まで |
| | 土曜日 9時00分から 17時30分まで 送迎実施の有無 あり なし |
| 支援内容(具体的な支援内容については赤字にて記載) | |
| 本人支援 | <p>【健康状態の把握】 来所時や利用中に定期的な検温や体調観察をおこなうことで心身の状態をいち早く把握します。</p> <p>【健康の増進、生活リズムの形成】 定期的な通所を支援し、安定した生活リズムを維持できるようサポートします。(送迎、興味のある活動の提供、個室など静かな環境の準備など)また、健康な生活の基本となる食を営む力の育成に努めるとともに楽しく食事ができるよう口腔内機能、感覚等に配慮しながら姿勢保持、自動具などに関する支援をおこないます。さらに病気の予防(手洗い、換気、消毒など)や安全への配慮、意識付けをおこないます。</p> <p>【基本生活スキルの獲得】 個別活動の中で、整理整頓(片づけ)の習慣をつけるための時間を確保します。身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、身だしなみ、排泄(トイレトレーニング)などの生活に必要な基本的スキルを獲得できるよう支援します。(視覚情報の提示(例:イラスト)など子どもの障がい特性に合わせた指導を実践していきます。)</p> <p>【構造化による生活環境の整備】 さまざまな活動や遊びを通して全体の状況や流れを学習できるよう環境を整えます。また、障がい特性に合わせ、タイミングや状況(全体像)を本人が理解できるよう「見える化」するなど分かりやすく構造化します。(事前に全体、個別のスケジュールの提示、活動内容の説明、タイマー、絵カード、写真など)</p> |
| | <p>【姿勢と運動・動作の基本的技能の向上】 日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持や運動・動作を改善、習得できるよう支援します。(施設内プールで活動、バランスボール、ラジオ体操、散歩、公園などの外遊び、季節ごとの創作活動、工作(はさみなど道具の使用、ちぎる、つかむなどの動き)、塗り絵、パズル、プリント(なぞり書き)、個別課題(紐通し、ボタンはめ外し、箸の袋詰めなど)</p> <p>【身体の移動能力の向上】 子どもの障がい特性に合わせて自力での身体移動や歩行、車いすによる移動など日常生活に必要な移動能力の向上のために運動に関する支援プログラムを実施していきます。(バランスボール、ボール遊び、鬼ごっこ、プール内でのウォーキング、散歩など)</p> <p>【保有する感覚の活用】 子どもの発達段階及び特性に配慮した視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用できるような活動を実践していきます。(粘土、スライム、キーボード、木琴、メロディーブックなど)</p> <p>【感覚の特性への対応】 感覚過敏など特性に配慮し、必要に応じて個々に合った環境調整をおこないます。(イヤーマフの使用、個室対応など)</p> |
| | <p>【感覚や認知の活用】 視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して、必要な情報を収集して認知機能の発達を促す支援をおこなっていきます。(創作活動、折り紙、カルタ、トランプ、数字、文字、言葉遊びなど)</p> <p>【知覚から行動への認知過程の発達】 環境から得た情報を適切に処理し、行動につなげる一連の認知過程の発達を支援していきます。(集団活動、ボードゲームなど(遊びの内容やルールの理解))</p> <p>【認知や行動の手掛かりとなる概念の形成】 物の機能や属性、形、色、音が変化の様子、空間・時間等の概念の形成を図ることによって、それを認知や行動の手掛かりとして活用できるように認知教材(型はめパズル、ブロック、色のマッチング、動物カードなど)を活用し取り組んでいきます。</p> <p>【数量、大小、色等の習得】 日常生活動作(食事や排泄、衣服の着脱など)、個別活動を通じて、子どもの発達段階に対応した数量、形の大きさ、重さ、色の違いなどの習得のための具体的な働きかけ(声掛けなど)をおこないます。(ブロック、パズル、ボードゲーム、絵本、絵カード、プリントなど)</p> |
| | <p>【受容言語と表出言語の支援】 子どもの発達段階に応じた話し言葉や文字・記号等を用いて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し表出する支援をおこないます。(職員、他者との会話やコミュニケーション、文字の読み書きなど)</p> <p>【指差し、身振り、サイン等の活用】 子どもの発達段階に対応するコミュニケーション手段を選定し、環境の理解と意思の伝達ができる機会を積み重ねていけるように環境及び関わり方の調整を実施していきます。</p> <p>【コミュニケーションツールの活用】 文字・記号、絵カード、写真などのコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援します。</p> |
| | <p>【感覚運動遊びから象徴遊びへの支援】 子どもの発達段階に応じた感覚機能を使った遊びや運動機能を働かせる遊びの環境を整え、その上で、次の発達段階として見立て遊び、ごっこ遊びなどの象徴遊びへ促すための関わり方を提案し支援者が実践していく中で、徐々に社会性の発達を支援します。</p> <p>【一人遊びから協同遊びへの支援】 発達段階に応じた支援者の関わり方を提案し、一人遊びの状態から並行遊び、大人が介入しておこなう連合的な遊び、役割分担したりルールを守って遊ぶ協同遊びといったスモールステップでの遊びの育ちを促し、社会性の発達を支援します。集団活動を通じて、子どもたちが協力して楽しむ経験を積んでいきます。(集団活動、小集団での活動、創作活動など)</p> |
| 家族支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・送迎時、または必要に応じて学校やご家庭の様子や困っていること、事業所での様子などを相談、情報共有する時間を設けるとともに、連絡ノートも活用し今後の療育活動に活かしていきます。 ・相談支援専門員との定期的な支援会議や支援計画の調整、関係者・関係機関との連携による支援体制の構築をおこないます。 ・ご家族の負担を軽減していくため、必要に応じて送迎、延長支援にて対応していきます。 |
| 移行支援 | <ul style="list-style-type: none"> ・ご家族への情報提供や移行先での環境調整、援助方針や支援内容などの共有 ・移行先の受け入れ体制づくりへの協力 |
| 地域支援・地域連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・医療、教育機関など、各関係機関との連携 ・他通所事業所との支援方法などの情報共有 |
| 職員の質の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・定期的なミーティング、会議による支援方法に対しての情報共有 ・法人内研修への参加 ・外部の各種勉強会、研修、資格取得のための研修参加など |
| 主な行事等 | クリスマス会などの季節ごとの行事、お誕生日会、お出かけ、調理、お菓子作り、避難訓練など |